

平和維持・平和構築  
- 世界の中の日本の新たな課題 -

2008年7月17日  
三重大学「国際機構論」  
外務省国際平和協力室長  
紀谷昌彦

伝えたいこと

- 今なぜ平和維持・平和構築なのか？  
何が課題なのか？
- 平和維持・平和構築に  
日本はどう取り組むのか？
- 平和維持・平和構築のために  
私たち一人ひとりは何ができるのか？

## 今なぜ平和維持・平和構築なのか？ 何が課題なのか？（１）

- 1月 - 福田総理施政方針演説（「平和協力国家」）  
5月 - アフリカ開発会議（横浜宣言等）  
7月 - G8北海道洞爺湖サミット（首脳宣言等）  
平和維持・平和構築が主要課題の一つに。
- 平和維持・平和構築の問題は、一言で言えば「内戦」とその後の「国家再建」。
  - 冷戦期、国連PKOは中東など国家間紛争中心で小規模。
  - 冷戦後、内戦が急増。国連PKOや多国籍軍など大規模・多機能化。人道・開発関連国際機関・NGO、地域の機構とも連携。
  - 具体的には、カンボジア、旧ユーゴ、ソマリア、ルワンダ、シエラレオネ、東ティモール、コンゴ民主共和国、リベリア、コートジボワール、スーダン（南部及び达尔フル）等。
  - 9.11でアフガニスタンに焦点。イラクも国家再建が課題。

## 今なぜ平和維持・平和構築なのか？ 何が課題なのか？（２）

- 平和維持・平和構築は、国際社会にとって大きな課題。
  - 国際テロ（アルカイダ等）・国際犯罪（麻薬等）の温床に。
  - 難民・国内避難民や貧困・感染症の増大は、深刻な人道問題に。
- 様々な用語・概念はあるが、対象は同じ。
  - 国際的には、「平和創造・平和維持・（紛争後の）平和構築」「平和維持活動」「平和支援活動」「平和活動」「国連平和構築委員会」。開発問題では「脆弱国家」。G8サミットでは「平和維持・平和構築」「脆弱国家や紛争後の国家」に言及。
  - 国内的には、「国際平和協力」が主流（国際平和協力法など）。国際平和協力懇談会報告書では「平和構築 = 平和の定着 + 国づくり」。アフリカ開発会議では「平和の定着」を頻用。福田総理は「平和協力国家（Peace Fostering Nation）」を提唱。

## 平和維持・平和構築に 日本はどう取り組むのか？

- 日本にとって平和維持・平和構築とは何か？
  - 国際テロ・国際犯罪など安全保障上の要請。
  - 難民・国内避難民や貧困・感染症など人道上の要請。
  - 資源・エネルギーの確保や国連・地域外交等にもメリット。
  - 更に、「平和国家日本」の理念を世界に実現。  
(明治開国、戦後復興、経済協力等の経験を活かす。)
- 日本は平和維持・平和構築にどう取り組むのか？
  1. 現場における取組の強化
    - 国際平和協力の推進
    - ODAの拡充
  2. 知的リーダーシップの推進
  3. 平和構築を担う人材育成

### 1. 現場における取組の強化 (国際平和協力の推進)

- 国連PKO等への積極的な貢献
  - PKO法(ゴラン高原とネパール派遣中、スーダン準備中)
  - 給油新法・イラク特措法
  - 文民派遣(ミンダナオ、アフガニスタン等)
  - 非ODAの資金協力
- 国際平和協力に関する法的枠組みの整備
  - 国連との関係、武器使用、安全基準、文民の扱い等が論点に
- しかし、人的貢献は限定的
  - PKO予算は2位、軍事・警察要員は82位



## 1 . 現場における取組の強化 ( O D A の拡充 )

- O D A 大綱の重点課題 積極的に推進
- 様々な援助手法 ( 例 : バイ・マルチの各種支援 ) 及び体制の整備 ( 例 : 現地 O D A タスクフォース )
- 機動的・効率的な援助の実施 ( 例 : 自衛隊と O D A は車の両輪 )
- しかし、O D A 減の影響大



## 2 . 知的リーダーシップの推進

- 基本的考え方 : 平和の定着と国づくり
  - 全ての紛争は異なる - 個別的アプローチ
  - オーナーシップ ( 当事者の能力・意思 ) とパートナーシップ ( 関係者の連携・協力 )
- 治安の確保 地雷・小型武器、今後法整備も
- コミュニティの再建 人間の安全保障
- 国家の再構築 国づくり・人づくり
- 経済開発 インフラ整備、ビジネス推進
- 実践と発信 ( 平和構築委員会、アフリカ開発会議、G 8 サミット、シンポジウム等 & 現地 )

### 3 . 平和構築を担う人材育成

- 平和構築人材育成パイロット事業（広島平和構築人材育成センター）  
[毎年日本人15人・アジア人15人]の本格化
- 防衛省に国際平和協力活動関連の教育・広報拠点を整備
- 政府全体として「平和構築分野の人材育成と研究・知的貢献の拠点」を構築



### 平和維持・平和構築のために私たち一人ひとりは何ができるのか？

- 学生として行動を起こす
  - 募金で貢献（一番手軽・関わりができる）
  - 大学のサークル（身近なところで楽しく）
  - NGOや国際機関でのインターン・ボランティア（仕事を体験する）
  - スタディ・ツアー（現場を見る）
  - メーリングリスト（情報を得る・ネットワークに入る）
- 将来のキャリアとして考える
  - 日本政府・実施機関（外務省やJICAなど）
  - 国際機関（仕事と修士を経てJPOへ）
  - NGO（現場に近い・最近プロに）
  - 企業（CSR（企業の社会的責任）が益々重要に）
  - 研究者（深く知る）

「パラダイス鎖国」から「世界と生きる日本」へ  
「日本の良さを世界のために」

## お勧めの本

- 大芝亮・藤原帰一・山田哲也編「平和政策」  
(有斐閣・2006年)



- ポール・コリアー著  
「最底辺の10億人 - 最も貧しい国々のために本当になすべきことは何か？」  
(日経BP社・2008年)



## ネットワークを広げたい人へ

- 外務省 (基礎情報)  
- <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- 平和構築フォーラム (リソースとコンタクト)  
- <http://www.peacebuilding.jp>
- 国連フォーラム (国連の視点から)  
- <http://www.unforum.org>
- kiya.net ブログ (実践のヒント)  
- <http://www.kiya.net/blog/>

ご質問等は、[masa@kiya.net](mailto:masa@kiya.net) へどうぞ。